Ⅱ 火災の概要

1. 火災の概要

(1) 出火件数と出火率

令和元年(1月~12月)の出火件数は385件で、前年に比べて69件減少しており、全都道府県中では、第15位となっている。

また、出火率(人口1万人当たりの出火件数)は2.9件となっており、全国平均(3.0件)に比べ0.1件下回っている。

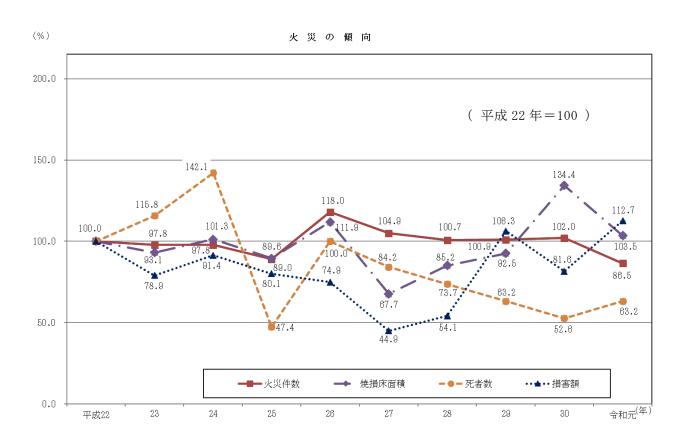
火災種別ごとの出火件数は、建物火災が190件(49.4%)で最も多くなっている。また、林野火災は7件で、前年に比べ9件減少した。

1日当たりの出火件数は1.1件(前年1.2件)で、無火災の市町村は黒滝村、野追川村、 下北山村、上北山村、川上村、東吉野村の6村である。

火災種別出火件数

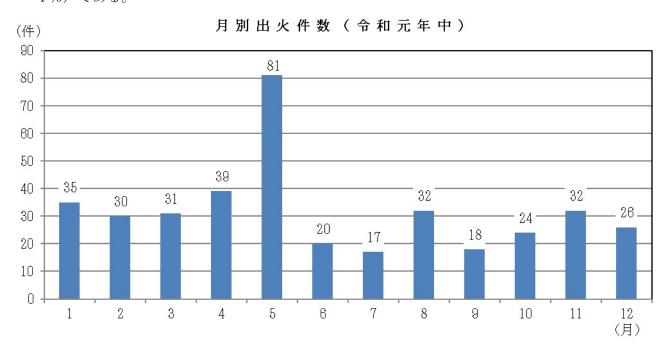
(単位:件)

	区		·	平成30年	令和元年	対 前 年 比 較				
				平成30年	77 74 76 4-	増 減 数	増減率(%)			
建	物	火	災	210	190	△ 20	△ 9.5			
林	野	火	災	16	7	△ 9	△ 56.3			
車	両	火	災	35	39	4	11. 4			
そ	Ø -	他 火	災	193	149	△ 44	△ 22.8			
合			計	454	385	△ 69	△ 15.2			



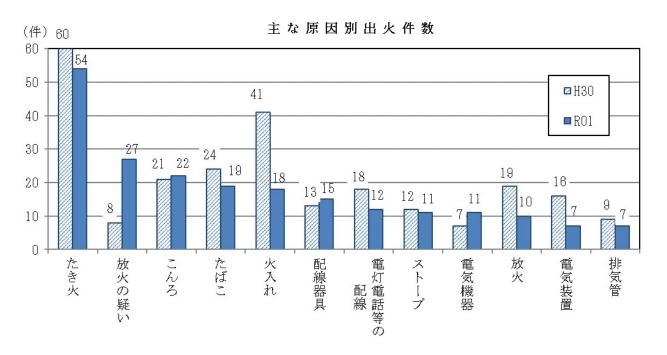
(2) 月別出火状況

月別の出火件数は、5月が81件(全体の21.0%)で最も多く、次いで4月の39件(10.1%)、1月の35件(9.1%)となっており、最も少ない月は、7月の17件(4.4%)である。



(3) 出火原因

出火原因の大半は、放火や火の不始末、不注意から発生している。令和元年中(1月~12月)の出火原因の第1位は、「たき火」による火災が54件(14.0%)、第2位が「放火の疑い」によるもので27件(7.0%)、第3位は「こんろ」によるもので22件(5.7%)となっている。



(4) 焼損棟数と焼損面積

令和元年中(1月~12月)の火災の建物焼損棟数は279棟で、前年に比べ31棟(10.0%)減少し、そのうち全焼は68棟(前年73棟)で、焼損棟数合計の24.4%を占めている。建物焼損床面積は13,079㎡で、焼損表面積は875㎡であった。

また、林野焼損面積は1,266aで、前年に比べ779a増加した。

			林	野						
	火災 件数		焼	損 棟 数	焼損面	積(m²)	火災 件数	焼損		
	件級 (件)	# <u></u>	全 焼	半焼	部分焼	ぼや	床面積	表面積	(件)	面積 (a)
平成29年	203	304	85	20	97	102	11,696	1,589	13	197
平成30年	210	310	73	19	92	126	16,990	2,026	16	487
令和元年	190	279	68	21	90	100	13,079	875	7	1,266

(5) り災世帯とり災人員

令和元年中(1月~12月)の火災でり災した世帯数は183世帯で、前年と同数、そのうち全損は51世帯で、全体の27.9%を占めている。

また、り災人員は417人で、前年に比べ34人減少した。

) A E II C J A A A												
		り災世帯	り災人員	1 日当たり り災人員								
	計	全 損	半損	小損	(人)	(人)						
平成29年	185	50	12	123	450	1.2						
平成30年	183	49	8	126	451	1.2						
令和元年	183	51	11	121	417	1. 1						

り災世帯とり災人員

(6) 死傷者数

令和元年中(1月~12月)の火災による死者は12人で、前年に比べ2人増加しており、建物火災によるものが8人、車両火災によるものが2人、その他火災によるものが1人であった。また、死因は、一酸化炭素中毒が7人、自殺が3人、火傷が1人となっている。

一方、負傷者は66人で、前年より4名減少した。

死 傷 者 の 数

(単位:人)

					死		者					1 / ()
				左	下 歯		負傷者					
		計	20歳 以下	21~ 40歳	41~ 60歳	61~ 80歳	81歳 以上	不明	男	女	不明	
	平成29年	12	0	2	2	6	2	0	6	6	0	70
	平成30年	10	2	1	1	4	2	0	7	3	0	70
	令和元年	12	0	2	0	5	5	0	9	3	0	66

火災種別及び出火時間帯別死者数

(単位:人)

k .											(1	<u>''. </u>
	合計		火 災	種別	J	出火時間帯別						
		建物火災	林野火災	車両 火災	その他 火 災	0~ 4時	4~ 8時	8~ 12時	12~ 16時	16~ 20時	20~ 24時	不明・ 調査中
平成29年	12	9	0	0	3	3	2	1	2	3	1	0
平成30年	10	6	0	1	3	2	1	2	2	0	3	0
令和元年	12	9	0	2	1	2	2	0	0	3	5	0

死に至った経過別及び死因別死者数

(単位:人)

	合計	死に至った経過別							死	因	5	別	
		逃げ 遅れ	出火後 再侵入	着衣 着火	放火 自殺	その他	不明	火傷	一酸化 炭素中毒・窒息	打撲・ 骨折等	自殺	その他	不明
平成29年	12	0	0	0	3	3	6	0	7	0	3	0	2
平成30年	10	1	0	1	2	2	4	5	2	0	2	0	1
令和元年	12	4	0	1	3	2	2	1	7	0	3	0	1

(7) 損害額

令和元年中(1月~12月)の火災による損害額は16億3,793万円で、前年に比べ4億5,161万円増加した。うち建物火災は16億2,132万円で、全体の99.0%を占めている。

また、火災1件当たりの損害額は425万円で、1日あたりに換算すると、449万円が毎日灰になっていることになる。